

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第2号 平成19年11月号

秋の夜長は
クラシック音楽で
まったり。



発行
MCSグループ
有限会社エーアイティ研究所
〒969-1169
福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2
TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467
URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>
E-Mail info@motomiya-mcs.jp

パソコン、『もっさり』していませんか？

パソコンの動きが鈍い、インターネットの表示が遅い、といった症状を表現する際に、「重い」「重たい」などと言います。

弊社社員Hは、この状態を「“もっさり”している」と表現しています。なるほど、状況を見事に描写しているな、と思います。

<昔は速かったように感じるのだけれど…>

メーカーや販売店では、パソコンをご購入されるお客様に対して、その時代に要求されている性能を満たした製品を販売するように、心がけています。

しかし、パソコンの世界は日進月歩です。特にこの数年、パソコンに導入される「ソフトウェア」の機能が増大し、その処理を担うパソコン側の負担が大きくなってきました。インターネットにおいても、写真や動画がふんだんに使用されるようになり、これもまた、パソコンへの負担となっています。

その要求に応えるべく、パソコンもどんどん性能を向上させています。

しかし、それは「新製品」に対してのことであり、一度お買い上げになった製品は、何らかの手当てをしないと、購入時の性能のままなのです。



<この3～4年の間に購入したパソコン>

私を感じているのは、3～4年前に購入した製品の中に、現在要求されている性能が満たされていないものが多い、ということです。もちろん、購入当時は十分な性能を発揮していたと思います。

しかし、その後のソフトウェアの進歩が、すさまじい勢いだったのです。情報セキュリティへの対応や機能増強を繰り返すうちに、ソフトウェアがどんどん大きくなってしまったのです。

Windows Xpが大改編(サービスパック2)されたことも大きな要因です。

<もう使えないの?>

パソコンの性能を左右する“2大要素”があります。

1つ目は、「CPU」と呼ばれる部品の性能です。この部品は、人間が作業をする際の“脳”の役割に似ています。パソコン(パーソナルコンピュータ)は、文字通り“計算”をする機械です。CPUは、この計算をするための部品です。計算が速ければ速いほど、より多くの仕事を高速に行うことができるのです。

2つめは、「メモリ」と呼ばれる部品の容量です。例えば、1月の台帳と2月の台帳を突き合わせて集計表を(手書きで)作りたい、といった場合、机の上に、1月と2月の2冊の台帳を開いておいて、電卓や集計用紙を置いて、作業をするのではないかと思います。

しかし、その机が狭い場合は、このようには行きません。机が広いと、必要な書類をゆうゆうと広げて作業ができます。

メモリの容量とは、この“机の広さ”だとお考え下さい。



“脳”であるCPUは、交換することが困難です。ですから、パソコンをご購入の際には、将来を見据えて「少し高級かな」と思われるモデルを選択されることをお勧めします。(子どもが生まれたときのために、大きめのミニバン車を購入しておこう、という感覚でしょうか。)

“机”であるメモリは、部品を足すことによって容易に増強することができます。機種によっては、部品の相性や組込方法を考慮しないといけない場合がありますので、弊社担当者までご用命ください。この「メモリの増強」が、結構効きます。

<高性能だし、メモリも多いはずなのに…>

実は、パソコンを“もっさり”させてしまう原因は、機械の性能によるものだけではありません。

パソコンには「ハードディスク」と呼ばれる部品が入っています。この部品は、云わば“倉庫”や“書庫”の役割を担うものです。

年に1度の大掃除。きちんと整理したはずの書庫なのに、なぜか半年も過ぎると「書籍が増えた訳でもないのに、きちんと取まらない。あちらこちらに飛び出している。」といった事はないでしょうか？

ハードディスクの中でも、同じような事が起こります。パソコンは、この状況を何とかしようとしてくれますが、書籍をバラバラにしてまで、無理やり収めてしまいます。このようになってしまうと、1冊の本を読む際に、書庫のあちらこちらからページを集めてこなければなりません。これが、“もっさり”の原因になる場合があります。

<まずはご相談を>

パソコンが“もっさり”しているなあ」と感じられましたら、まずは、弊社担当者までご相談ください。少しのご負担で、まだまだ使えるパソコンに復活できるかもしれません。

編集後記 私の古くからの友人に、同じ車を20年間乗り続けている方がいます。もちろん、買った当初のままという訳には行かず、本人曰く「もう、違う車と言ってもいい」ほど、修理やオプションの追加を重ねたそうです。先日、その車を運転する機会がありましたが、7年落ちの私の車と変わりが無いぐらい、しっかりとした走りでした。当時の新卒の給料では、とても手が出せないと思っていた車ですが、高級なものは高級なだけのことはある、ということでしょうか。(郡司)